

## 0. 序論 | 前回の振り返り(9:1-18の要点)

- パウロには正当な「権利」(飲食・結婚・報酬)があったが、福音の妨げを避けるために自発的に用いなかった。
- 自由の本質＝福音のために、自分の権利を手放す自由。
- 本日の続き:「奴隷になる自由」「自分を制限する自由」(19-27節)。

## 1. すべての人を得るために、すべての人を奴隷となる(9:19-23)

**キービッグアイデア**:愛ゆえに自由を手放し、相手に合わせる。ただし\*\*「キリストの律法の中で」\*\* (9:21)という境界を守る。

### 1-1 4つの具体例(20-22節)

1. ユダヤ人に対して:つまずきを避ける配慮(使 16:3/テモテに割礼)。
2. 律法の下にある人に対して:誤解を解くための実践(使 21:21-26/ナジル人関連の費用負担と身を清める)。
3. 律法を持たない人に対して:共通土台からの宣教(使 17章/アレオパゴスで詩人引用等)。
4. 弱い人に対して:偶像に献げられた肉を食べない配慮(Iコリント 8章)。

**ポイント**:妥協ではなく配慮。福音の真理は一步も引かず、方法を柔軟に。

### 1-2 今日への適用例

- 礼拝の装い・礼拝式:形式を絶対化せず、つまずきを避けつつ礼拝の本質(御言葉・祈り・賛美・献金・聖餐)を大切に。
- 私的な自由の手放し:語り方・趣味・時間・食事・SNS等、相手の益のために節度ある選択。
- 動機(9:23):福音の恵みをとともに受けるため。

## 2. 朽ちない冠のための節制(9:24-27)

キービッグアイデア: 報いに相応しい走り = 目標意識 × 自制(節制)。

### 2-1 競技の比喻(24-25 節)

- イスミア競技会を背景に、選手は「朽ちる冠」のためにあらゆることを節制。
- 私たちは朽ちない冠のために節制する(霊的優先順位・時間管理・献身・寛大さ・純潔・言葉の聖め)。

### 2-2 二つの「目標」(26 節)

- ゴールの目標: キリストの栄光(Ⅱコリ 3:18)。
- 敵(ターゲット)の目標: 自分自身(肉・怠惰・自己中心)。

### 2-3 具体的訓練(27 節)

- 御言葉・祈り・交わり・奉仕・献金・安息のリズムで自分を従わせる。
- 自己中心との戦いを日々更新する(「からだを打ちたたいて服従させる」)。

## 3. 結論・応答

- 宣言: 「私は自由だ。だから、あえて人の奴隷となる。」(9:19,23,27)
- 応答の問い:
  1. 今週、誰の益のためにどの自由を1つ手放すか?
  2. 朽ちない冠のためにどの習慣を節制・開始するか?
  3. キリストを目標に据えるため、毎日のどの時刻を主にささげるか?